



人権・同和教育だより *3学期編

平成27年3月24日

今回は、島根県人権・同和教育研究指定校1年目の主な取り組みをふり返りたいと思います。本年度、人権学習や同和問題学習は各学期に一度おこないました。生徒たちはその度ごとに真剣に取り組み、授業後の感想からはしっかり考えてくれたことがうかがえました。またPTAのご協力の下、以下表のような事業を実施しました。来年度は2年目として、今年度の反省を生かし、さらに実のある内容を目ざしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

♣高P連<1年次>実施報告より

今年度、本校PTAは「PTA活動」育成事業の対象となり、いろいろなPTA活動も、人権・同和教育的視点で取り組んできました。この1年の活動については、先月PTA連合会に報告しました。右欄は保護者の方の参加人数です。

1) 実施事業

事業	実施日	内容	参加
生徒と保護者の懇談会	平成26年7月7日(月)	社会に出る前の3年生と保護者の意見交換	5名
PTA体験講話	平成26年10月22日(水)・ 28日(火)・29日(水)	卒業生・保護者・地域の方による実体験に基づいた講話(1・2年生対象)	8名
「地球のステージ」公演	平成26年12月5日(金)	NPO法人地球のステージ代表理事の桑山紀彦氏による公演(生徒・保護者・教職員対象)	11名
街頭指導	平成26年5月19日(月) ～5月28日(水) 平成26年10月21日(火) ～10月28日(火)	保護者と教職員、風紀委員による登校時の交通マナー指導とあいさつの励行	26名
あいさつ運動	平成26年6月19日(木) ～6月28日(土) 平成26年10月29日(水) ～11月8日(土)		
クリーンアップ事業	平成26年8月24日(日)	生徒・保護者・教職員による校舎周辺の一斉美化活動	38名
翔陽祭PTA村	平成26年11月9日(日)	PTA会員による学園祭(翔陽祭)でのバザーなどの協賛店	80名
PTA通信発行 PTA活動報告書「飛翔」発行	平成26年12月25日(木) 平成27年3月1日(日)	定期的にPTA会員に活動の様子を知らせる。年度末には活動報告を総括する。	6名
フィルタリング啓発セミナー	平成27年2月8日(日)	スマートフォン利用を中心とした子どもたちのインターネットトラブルへの危機感を意識し、フィルタリングの必要性を認識する。	数名

2) おもな活動のふり返りから

生徒と保護者の懇談会では、保護者から学生時代の体験を聞き、進路決定目前の3年生からもだんだん本音が出てきました。そして、生まれ育った故郷に戻れる安心感は、十分生徒に伝わったようでした。街頭指導やあいさつ運動では、朝一番の生徒の様子があいさつを返す声でよく分かったという感想をいただきました。

また、今年度のメイン事業となった「地球のステージ」公演では、会長さんを中心に、参観者を募っていただきました。参観された保護者の中には、子どもさんと感動を共有された方もおられました。

大雨の中での実施となった翔陽祭PTAテント村には、今年もたくさんの地域の方に来ていただき、このPTAテント村が、もっとも多くの保護者が学校と関わる場であり、生徒と保護者の方々が一緒に翔陽祭を作り上げ、保護者どうしの交流を深める良い機会であることが改めて確認できました。

3) 来年度の方針

わずか2年間ですが育成事業ということで、講演会など例年にはない企画が実施できます。今年度も参加された方からは、よい反響をいただいています。来年度は参加しやすい日時や、関心の高い内容の企画を考えていますので、ご多忙のところではありますが、この機会にぜひ参加していただければと思います。

♣3 学期の人権・同和教育研究授業から

2月16日(月)の6時間目に、3学期人権・同和教育HRを実施しました。1年生は「偏見を打ち壊せ！」として、身の回りの固定観念やステレオタイプの見方が差別につながることを学びました。2年生は「差別はなぜ残ったのか(2) 水平社宣言をとおして」として、被差別部落の人々の自らの手による差別解消によって、真の解放がようやく始まったことから、差別の解消について考えました。また3年生は、2月18日(水)に、現在の社会における差別の実態について、県内で広く活動されている三浦成人さんの講演を聞きました。以下は生徒の感想の抜粋です。

<1年生>「偏見を打ち壊せ！」

- *「十人十色」というように、人がいるだけ見方も考え方もあるから、自分と相手の見方・考え方は違うかもしれないということを頭において、自分の価値観を相手に押しつけないように生活すれば良いと思った。
- ***適当なことを言わず**、本当のことを分かったうえで行動したい。偏見や思い込みで人を傷つけることがあることを理解する。
- *「絶対に」とか「〇〇そう」の多くは、ただの思い込みで、実際はそんなことはなかった。それを信じきって人に接したり物事を考えたりすることはいけないので、その決めつけに捉われないようにしていけたらいい。
- *仕事をしているだけで偏見につながるのはおかしい。日本の建物や道路はその人たちのお蔭なので、自分が就職する時は仕事に誇りを持っていいと思った。
- *「あんなふうになりたくなかったら、こうしろ」と言われるけど、その通りにしたらそうなるとはかぎらんと思う。その人なりの生き方や考え方があるから、**知らないのにそんな風に言うのは偏見**だ。

<2年生>「差別はなぜ残ったのか(2) 水平社宣言をとおして」

- *差別はその人の見方・感じ方・行動など**意識の持ちよう**で大きく違うと思うので、もっと周りを見て行動する人が増えるとよい。
- *もし失敗に終わっていたら、さらに差別がひどくなるかもしれないのに、**恐れずに行動**した人たちは、差別していた人たちよりもはるかに優れている。
- *ほかの**人よりも上に立ちたい**のではないか。他の人を思いやり、理解していかなければ差別はなくなる。だから今までの**差別をしっかりと学んでいかないと、また同じことがおこってくる**と思うので、これからも人権同和教育を行っていくべきだ。
- *差別を受けてきた人が、人間らしさを失わなかったのは、**差別する人より強い精神**を持って、いつか差別がなくなると信じていたのだ。

<3年生>人権・同和教育講演「生きるということ」 三浦成人さん

- *差別をしないことが「いいこと」という考えではなく、「**当たり前のこと**」と考えたい。
- *授業で差別問題について習ったが、今日は深く体験談を話していただいて、差別の現実を知った。差別はする方が勝手に作って決めつけ、差別されている方は理不尽すぎると思った。周りで見ている人は、かばうと自分も差別されるかもしれないという恐れがあるけど、そんなこと関係なくかばう人は、強い人間だと思う。
- *いつも**自分らしさ**について考えている。これまでは、皆と一緒にいてもその場の雰囲気にならされて、自分らしさを出せず、楽しいようで楽しくない日々を送っていたけど、最近自分が思ったとおりに行動する努力をしている。途中で鳴ったチャイムが、あんなにもじゃまに思えたのは初めてだった。
- *人の意見や行動にならされていたが、差別する人には流されず、もっと自分の気持ちを大事に行動していきたい。
- *悪口を聞いて嫌だと思っても言葉にせず、自分の本音をあまり言わなかったけど、相手と自分の立場をよく考えもう一度基本に戻って人との関係を考えたい。

♥今学期を終えて…

3月2日におこなわれた卒業式で、少し驚き、そしてとても感心したことがありました。山本市長さんが来賓に列席されるだけでもすごいなあと思っていたのですが、祝詞を述べられる前に紹介された市長さんは、大きくはっきり「はい！」と返事をされたのです。先ほど呼名された卒業生のように。そしてその姿から、日頃から挨拶や返事を大切にされていることがうかがえました。

ところで今年度の教職員研修のふり返りから、進路指導部を中心に、各科とも生徒の進路実現にもっとも力を入れていることが分かりました。とくに就職希望者の多い本校では、自然に身についた挨拶や返事が、3年次の面接練習につながっていくと思います。改めて、益田市の代表である市長さんをお手本にしたいと思いました。

2月18日の3年生人権講演会で、三浦さんから話を聞いた生徒の感想で印象的だったのは、現在の差別に衝撃を受けたという声や、島根にも差別があったことに驚いたという声でした。本校では2年次に、部落差別について集中的に学びますが、それが“遠い昔のこと”だけでなく、“どこか遠くのこと”として捉えられていたんですね。しかし実際には身近なところで、現に苦しんでいる人がいる。このことについて、私たち教職員は、そして周りの大人はどうかと考えさせられました。今後の授業のあり方についても改善を図っていきたいと思います。

2月初旬にさかのぼりますが、人権センターで子どもたちのスマートフォン環境の実態を知る機会がありました。これに関してはこのところさまざまな問題が発生しており、健全な使い方やルールを明確にする時期にきているのではないのでしょうか。来年度は生徒だけでなく、保護者の方とも一緒に考えていけたらと思っています。(有)

